

CO・OP

京都の生協

2026/January/No. 115
京都府生活協同組合連合会



地域とともに築く、眼科医療の未来

TalkTalk トークトーク

◆京都医療生活協同組合 理事長 みやもと 宮本 和明さん
◆京都府生活協同組合連合会 会長理事 にしじま 西島 秀向



TalkTalk
トークとーく

対談

地域とともに築く、
眼科医療の未来

京都医療生活協同組合 理事長 宮本和明さん
京都府生活協同組合連合会 会長理事 西島秀向さん

京都医療生活協同組合は中野眼科の中野信夫先生により1950年に京都・千本丸太町に創設されました。現在、中野眼科は全国で唯一の眼科専門の医療生協による診療所として、京都市内4カ所での眼科一般診療をはじめ高度な手術を実施し多くの患者さんの信頼を集めています。今回は2019年より理事長として組織を牽引する宮本和明先生に、京都医療生協設立の理念にもとづく「患者とともにつくる医療」への思いを伺いました。

前理事長とのご縁に導かれた医療生協との出会い

西島 医療生協に関わられることになったきっかけをお聞かせください。
宮本 もともと京都大学医学部附属病院に勤務しており、眼科の医局長をしていた2010年頃、京大が医療機関に非常勤医師を派遣している関係で、中野眼科ともつながりがありました。当時の京都医

療生協理事長の山田亮三先生と懇意にしていたとき、中野眼科の常勤医師としてお誘いを受けたのですが、京大を離れられない状況でした。その後、2014年に京大でお世話になっていた教授が退官される際に、当時講師をしていた私にも次のステップとしていくつかの病院を勧め

C/O/N/T/E/N/T/S

トークとーく対談	秋の京都消費者大会「シリーズ若者の未来と大人の責任を考える～私たちの食糧をとりまく情勢から考える未来～」後援	会員生協福祉・医療分野交流会 開催
地域とともに築く、眼科医療の未来	平和（被爆・戦後80年）の取組	2025年度 理事監事研修会 開催
防災の取組	ピースアクションinナガサキ	第24回京都府協同組合役職員体験・交流学校開催
京都府総合防災訓練	「ヒロシマ・ナガサキ原爆と人間」写真展と高校生が描いた「原爆の絵」展	第36回近畿地区生協・行政合同会議
防災学習会「家族でできる防災への備え」開催	子ども平和新聞プロジェクト	2025年度第2回京都府食の安心・安全意見交換会
能登半島地震被災地支援ボランティア	トピックス	2025・産直フォーラムin鳥取
くらしの安全	京都の生協 理事長懇談会	災害時連携NPO等ネットワーク設立10周年記念シンポジウム 後援
京都府文化生活部との懇談会 開催	京都の生協 生協活動功労者表彰式	京都府生協連 第53回「京都の生協活動を豊かに発展させる協議会」
2025年度京都消費者問題セミナー「あなたをねらうネット広告！～悪質・巧妙な広告による消費者トラブルにまきこまれないために～」開催		おもな行事のお知らせ
		年賀状



京都府生活協同組合連合会 会長理事
西島秀向

とご縁がきっかけだったわけですね。眼科医としてのご経験が、理事長としての職務に役立っている点はありませんか？

宮本 私は京大で、神経眼科という分野を専門にしています。この分野は、一般の眼科領域に比べて「これが原因です」と即座に言い切れない

ケースが多いんです。そのため、患者さんの訴える症状を細かな点まで丁寧に問診をして、複数の情報を精査・統合して判断する力が求められます。患者さんの話をよく聞くということが、非常に大切な眼科領域なんです。

宮本 組織の長は独善であってはなりません。さまざまな人の疑問や意見をくわしく聞き、複数の診療所の動きや課題、社会や地域の変化など多様な要素を総合して判断する必要があります。その意味で、神経眼科の医師としての経験が役立っていると感じますね。

京都医療生協設立の理念にもとづく「患者とともにこころを医療」

西島 京都医療生協の成り立ちと理念について教えてください。

宮本 京都医療生協が設立された1950年は戦後間もない頃で、日本全体が急激なインフレに見舞われ、医療現場は診療施設の荒廃や衛生材料の不足など深刻な状況にありました。また、国民皆保険制度もなく、医療を受けられる人と受けられない人の格差も問題となっていました。

こうしたなかで、京都医療生協は中野眼科を開設した中野信夫先生をはじめ、医師と職員が一体となってより多くの人に、質の高い医療を公平

かつ安価に提供するという理念のもとに設立されました。

西島 宮本先生はさらに「患者とともにこころを医療」も提唱されていますね。

宮本 はい、病気の治療で医師ができることには実は限界があります。決して「絶対的な存在」ではなく、ましてや魔法使いでもありません。

本来の役割は患者さんの意思決定を支援し、治療力を最大限に引き出すことだと考えています。案内人として、「この道は少し険しいけれど、ゆつくり行けば楽に進めますよ」といったような説明をしながら、患者さんの旅路を支

える。そして、共に健康と医療をつくっていく。これは、医療生協の基本理念そのものだと思います。

西島 実際の診察の場面ではどのように実践されているのでしょうか？

宮本 神経眼科とちがって、一般的な眼科は病態が視覚的にわかりやすいんです。眼底写真などのカラー画像を使って診断することが多く、「ここに出血がありますよ」などの説明が視覚的に伝わりやすい。患者さんと医師が同じ画像を見ながら治療方針を話し合える点を活かして、共有する医療”を実践しています。



西島 患者さんとのコミュニケーションで心がけておられることは？

宮本 まず、否定から入らないことですね。最近はいんた

京都医療生活協同組合 理念

- ・患者さんに信頼される目の医療を提供します。
- ・最良の目の医療技術と態度で「患者さん第一」を掲げます。
- ・患者さんと医療従事者が一緒になってより良い目の医療と健康を創ります。

京都医療生活協同組合 理事長
宮本和明さん



インターネットなどでくわしく調べて来られる方も多いので、「よく勉強されていますね」と受け止め、そのうえで、情報や認識が間違っている場合は丁寧に説明しています。

また、さまざまな質問や相談を受けるなかで、即答できない場合は「宿題にさせてください。私も勉強になります」と謙虚に向き合っています。

患者さんの疑問に接すること自体が私たちの学びにもなりますし、互いに理解を深めながら信頼関係を築くことが「患者とともにつくる医療」の基本だと思っています。

西島 良い医療の提供には職員員の精進が不可欠とおっしゃられていますね。

宮本 医療の進歩には限りがなく、加速度もどんどん増し

組合員との協同により交流や啓発を図る活動を展開

ていますから、常にアンテナを張って謙虚に、そして一生学び続ける姿勢を大切にしていきます。医師が講師として疾患ごとの手術について院内で

講義しています。また、新入職員・中間管理職・マネージャーの職能別研修も重視しており、外部の講師を招いて研修会を実施しています。

大学」、組合員対象の「無料眼科健診」を実施しています。

「健康大学」では眼科に限らず、外部のさまざまな診療科から講師を迎えて幅広く医療知識を深める機会としています。

また、組合員交流会ではギターや琴などの演奏会を通して楽しく交流するほか、映画界の巨匠、故中島貞夫監督をお招きして「京都映画史と心に残る俳優たち」のテーマで講演いただいたこともあり

くる健康」を創刊して以来、40年余りにわたり年4回の発行を通して保健や医療に関する情報をわかりやすく伝えていきます。目の病気や健康について、また生活習慣病予防など、専門的な内容もなるべくやさしい言葉で紹介するよう心がけています。

「健康」の先生のこと」を拝見し、とてもわかりやすく勉強になりました。特にサプリメントについての記事が興味深かったです。

西島 『つくる健康』の先生の連載記事をまとめた冊子『目のこと』を拝見し、とてもわかりやすく勉強になりました。特にサプリメントについての記事が興味深かったです。

ども伺えて、参加者のみなさんにも大変好評でした。これらの活動はいずれもコロナ禍で中断していましたが、5類移行後あたりから少しずつ再開してきているところです。

宮本 ありがとうございます。診察時に患者さんから「CMや広告などで目によいと宣伝されているサプリメントは効くの？」「ブルーベリーは目によいの？」といった質問をよく受けます。ブルーベリー

宮本 はい、1982年に『つ

については、それが目によい

とされたきっかけは、第二次世界大戦中、イギリス空軍のパイロットたちがブルーベリージャムを頻りに食べていたことで、「夜間視力がよくなくなった」と話したことにあります。この逸話が先行し、ブルーベリーに含まれる「アントシアニン」が視覚に関わるタンパク質「ロドプシン」の再合成を促す働きがあることがわかったため、ブルーベリーは目の健康に有効なんだろうとなった経緯があります。しかし、視力回復や目の健康維持などの有効性について科学的に証明されないまま現在に至っています。つまり、現時点では「ブルーベリーが目によいかどうかはわからない」が結論です。

もちろん人によってはサプリメントの効果を感じて納得されていることもあるでしょうし、ひよっとしたら有効性が証明されていないだけで、実はいいのかもしれない。です。否定はしませんが、あえてお薦めもしていません。ただ、医学的根拠にもとづいて高度に科学的な方法で開発され、膨大な検証を重ねてようやく市販される医薬品





とは、効果・効能の根拠が異なる点は説明しています。こうした情報を正しく伝えるのも医療生協の役割だと思います。

地域での役割——医療をつなぎ、支える存在として

ついでに、医療や健康に関する情報が氾濫する時代だからこそ、組合員や患者さんの知る権利・学ぶ権利を尊重し

ながら、確かな根拠に基づいた知識を共有し、正しい判断ができるよう共に学んでいきたいと考えています。

西島 高齢化が進むなか、地域医療の役割の変化をどのように感じられていますか？

宮本 団塊の世代が後期高齢者となる2025年を目前に、地域で「医療・介護・予防・住まい・生活支援」を一体的に提供する「地域包括ケアシステム」の整備が進めら

れていますよね。また、これまでは大病院に患者さんが集中しキャパシティオーバーになるという問題もありました。こうしたなかで、地域の診

療所の役割はますます重要度を増していると考えています。目の病気に関しては、まずアクセスのよい地域の眼科に来ていただき、必要に応じて基幹病院につなぐ。私たち

がいわば「水先案内人」として、「これは大病院で精密検査や手術をした方がいいですよ」「これは地域で十分対応できますよ」と交通整理をすることで、医療全体のバランスを保つ貢献ができます。そのために、日頃から治療を通して信頼関係を深めるとともに、健康や医療に関する情報を発信して定期健診やセルフチェックなどで、予防や早期発見のお手伝いをすることも大切な役割だと考えています。

れると思いますよ。また、これまでは大病院に患者さんが集中しキャパシティオーバーになるという問題もありました。こうしたなかで、地域の診

目の病気を早期に見つけ、地域で守るために

西島 地域の方々の目の健康を守るうえで、重要な取り組みとは何でしょうか？

いる」と思い込みがちで、視力検査だけでは発見しづらいのが現状です。

宮本 まず強調したいのが、目の病気は「自覚症状が出ないうちに進行するものが多い」点です。その代表が、視神経が障害されて視野が徐々に狭くなる緑内障で、見にくさを自覚した時には重症化していることが多く、静かなる失明」と言われています。視野の欠けを脳が補い「見えて

ACジャパンのCMでバカボンのパパが「40歳を過ぎたら、眼底検査を受けるのだ！」と言っています。本当にそれとおりになんです。緑内障の罹患率は40代で約20人に1人、70歳を過ぎると約8人に1人と、決してめずらしい病気ではありません。

西島 他にも気をつけたい疾患はありますか？

宮本 白内障についてはご存じの方も多いですが、加齢により網膜中心部の黄斑が障害され、視力低下や視野の中心部が歪んだり暗く見えたりといった症状を引き起こす加齢黄斑変性も近年非常に増加傾向にあります。

西島 予防や早期発見に必要なことは？

宮本 彼の疾患もそうですが、まず特に大きなリスクと

なる喫煙は絶対に避けてください。次に大事なことは、片目ずつの見え方をチェックする習慣です。片方の目が悪くても、もう片方が補うので気づきにくいからです。視界の歪み（変視症）が初期のサインですから、少しでも違和感があれば躊躇せず眼科を受診してください。

アムスラーチャートのような格子シートで自宅でも簡単に歪みを確認できますし、自分で作るほかインターネット上に公開されているものを印刷して使うこともできますよ。



アイフレイル段階での予防の重要性

西島 日常生活で目の健康を守るために意識しておくべきことはありますか？

宮本 最近、日本眼科学会などが積極的に発信しているのが「アイフレイルの早期発見による高度な視機能障害の予防」です。フレイルは「健康と病気のあいだ」の状態を指し、目の衰えなどによって「小さい文字が見にくい」「夕方になると見にくくなる」「明るい場所ですら以前よりまぶしさを感じる」「疲れやすい」といった不調の段階ですね。

西島 病気の手前の段階で気づくことが大切なんですね。

宮本 そうなんです。眼科の疾患の多くは、症状をはっきり自覚する前に予兆のような変化が現れます。そのアイフレイル

の段階で眼科を受診することで早期発見につながり、生活習慣の見直しなどをアドバイスすることができます。また、

加齢黄斑変性の場合には有効性が認められているサプリメントを紹介するなど、できる支援はたくさんあります。

地域密着と高度医療を両立し最善かつ最新の選択肢を提供

西島 最後に医療生協として、

そして中野眼科として、今後めざしておられる地域医療の姿についてお聞かせください。

宮本 そうですね。まず何よりも、気軽に受診できる場であり続けたいですね。例えば、なんとなく目の不調を感じた時に、「ちょっと寄ってみようか」と思っていただけるような、いわばコンビニ的な身近で便利な存在ですね。

西島 中野眼科は、白内障の日帰り手術を早期から実施されておられますね。

宮本 はい、なんと1970年代からスタートしています。日帰り白内障手術が一般的になったのは2000年代

西島 症状が軽いうちにこそ受診すべきなんですね。

宮本 本場にそう思います。特に加齢に伴う目の変化は、気づかないうちに進むことが多いので、「少し見え方が変だな」と感じたら、迷わず検診を受けていただきたいと思います。

手術は比較的難易度が高く、一般的に大病院や総合病院などで入院手術として実施されることが多いのですが、当院では、モニターを見ながら手術ができる最新のビジュアルライゼーションシステムを導入し、より高い安全性と精度のもと日帰り手術を実現しています。

西島 身近な場所で高度な医療を受けられるのはありがたいですね。

宮本 そうですね。こうした外科的治療の拡充は、地域医療の充実という面で大変意義があると考えています。もちろん限界もあります。が、「できること」を少しずつ広げていく努力はこれからも続けていきたいですね。

また、私たち医師・職員が謙虚に学び、成長を続けるこ

プロフィール 宮本和明 (みやもと かずあき)

京都医療生活協同組合 理事長・中野眼科医院本院 院長
1991年、京都大学医学部卒業。1997年、米国ハーバード大学医学部 客員研究員。2000年、京都大学大学院医学研究科博士課程修了、医学博士号取得。同年、神戸市立中央市民病院 眼科 副院長に就任。2002年、京都大学大学院医学研究科眼科学 助手、2006年、同 眼科学 講師。京都大学医学部附属病院にて、外来医長、病棟医長、医局長を歴任。2014年、京都大学医学部附属病院を退職し、中野眼科医院本院 センター長に就任。2016年、京都医療生活協同組合 副理事長。2018年、中野眼科医院本院 院長。2019年より京都医療生活協同組合 理事長を務める。



とで「患者とともにつくる医療」を最善の形で実践していきたい。患者さんと向き合いながら、最新の医療にもとづく選択肢を示して一緒に考え、歩んでいく。この姿勢はずっと大切になりたいと思っています。

京都府総合防災訓練



救援物資を輸送するトラック

2025年8月31日(日)、宮津市の京都府立海洋高校を主会場に開催されました。直下型地震並びに近年の集中豪雨等による水害の複合災害を想定して訓練をおこなうことで、府民の防災意識の高揚を図り、被害の減少につなげることを目的に開催しています。京都府生協連は、京都府との間で締結している「災害時における応急対策物資供給等に関する協定書(1997年締結)」にもとづき、物資の輸送・配布訓練に参加しました。訓練では、地震発生を受けて京都生協丹後支部にて、鮎江賢光専務理事を本部長に災害

対策本部を立ち上げ、京都府から要請のあった救援物資を宅配配送トラックに積み込んで訓練会場に向かいました。



避難所に救援物資を届けました

京都生協から8人、京都府生協連から2人が参加し、救援物資としてプラスチックストロローが不要な緑茶と、常温保存可能な牛乳を会場参加者に配布しました。



参加者で記念撮影

防災学習会「家族でできる防災への備え」開催



(株)危機管理教育研究所・国崎信江代表

2025年11月13日(木)、京都経済センターとオンラインで開催しました。会場参加20人、オンライン参加16人、計36人が参加。主催は京都府生協連、京都生協が共催。

講師に、(株)危機管理教育研究所・国崎信江代表(危機管理アドバイザー)をお招きし、事前の備えや訓練の重要性を再認識し、実践的かつ具体的な防災対策を学ぶ機会となりました。

参加者からは「室内での危険を教えていただき、たいへん参考になりました。家族でこの情報を共有して実行しようと思います」「避難所の内情を知る機会はないので、参加して良かった」などの感想が寄せられました。

能登半島地震被災地支援ボランティア

京都生協に協力いただき、2025年7月26日(土)〜27日(日)、9月13日(土)〜14日(日)、10月11日(土)〜12日(日)、能登半島地震被災地支援サロン活動に、計3回取り組みました。

7月の1日目は輪島市町野町金蔵集会所、2日目は輪島市町野町鈴屋集会所、9月の1日目は鳳珠郡能登町岩井戸集会所、2日目は輪島市三井町駅カフェみどり、10月の1日目は輪島市堀町第一団地集会所、2日目は輪島市町野町佐野寺でサロン活動を実施。サロンでは、参加されたみな



被災者も一緒にたこ焼きづくり



たこ焼きをつくりながら交流しました

さんと一緒にたこ焼きをつくり、焼きたてのたこ焼きを食べながら交流しました。仮設住宅や公営住宅で暮らしておられるみなさんが、この機会に久しぶりに集まれ、談笑しながら楽しいひとときを過ごしていただき、取り組んだ私たちも元気をもらいました。

初日の活動終了後は災害NGO「結」さんを訪問し、発災直後から現在までの取組みや、今後の取組みについてお話を伺い、私たちがこれから出来ること等について考える機会となりました。次年度以降も何らかの形で被災地支援の活動に取り組んでいきたいと思えます。

京都府文化生活部との懇談会 開催

2025年7月30日(水)、

コープ御所南ビル会議室で開催し、京都府や生協関係者11人が出席しました。京都府生協連・西島秀向会長理事と京都府文化生活部・嶋津誉子部長から開会あいさつがありました。今回の懇談会のテーマは「消費者問題への取組み」とし、生協(京都生協、大学生協)と京都府からの取組み報告のあと懇談しました。京都府消費生活安全センター・桑谷正之センター長から「『京都府安心・安全な消費生活の実現を目指す行動計画』の施策実施状況」について報告がありました。引きつづき消費者問題に関わる取組みを連携してすすめることを確認しました。



京都府文化生活部・嶋津誉子部長があいさつ

2025年度京都消費者問題セミナー
「あなたをねらうネット広告」～悪質・巧妙な広告による消費者トラブルにまきこまれないために～開催



(一社)日本アフィリエイト代表理事
ト協議会・笠井北斗

2025年10月23日(木)、オンラインで開催、72人が参加しました。

消費者被害の事例と対策について広く啓発し、適格消費者団体の認知をはかることを目的に毎年開催しており、今年は18回目。京都府くらしの安心・安全月間事業として実施。主催は、京都府、NPO法人コンシューマーズ京都、適格消費者団体NPO法人京都消費者契約ネットワーク(KCCCN)、適格消費者団体特定適格消費者団体NPO法人消費者支援機構関西(KC's)、京都生協、京都府生協連で、京都市の後援事業。「あなたをねらうネット広告」～ターゲット広告・データパターンの罠」と題して、(一社)日本アフィリエイトト協議会(丁AO)・笠井北斗代表理事より講演があ

りました。デジタル化の急速な進展により、ネット広告による消費者トラブル被害・詐欺被害が急増、AI技術の悪用で偽動画やデータパターンの拡大していることを紹介。実際のデータパターンの手口や注意ポイントをお話いただきました。



報告者への質問を交え、交流しました

つづいて、KCCCN・増田朋記理事・事務局長(弁護士)より、レスキュー商法に対する差止請求事例などの紹介、KC's・小林紀久子理事・事務局長から、事業者と消費者が意見交換や交流をする双方向コミュニケーション研究会の案内と活動報告がありました。NPO法人コンシューマーズ京都・下田唯理事が司会をつとめました。

秋の京都消費者大会
「シリーズ若者の未来と大人の責任を考える」
～私たちの食糧をとりまく情勢から考える未来～後援



京都大学人文科学研究所・藤原辰史教授

2025年9月27日(土)、京都経済センターとオンラインで開催されました。

主催はNPO法人コンシューマーズ京都、京都府生協連が後援しました。参加は会場30人、オンライン21人の合計51人でした。

京都大学人文科学研究所・藤原辰史教授より、「食権力の歴史 私たちの食糧をとりまく情勢から考える未来」と題して基調講演がありました。

「食権力」と言うことばを用いて、世界の食糧を支配する穀物メジャーが巨額の利益を得るために、食糧を投機目的に扱い、その結果多くの飢餓で苦しむ人々を生み出していることを学びました。藤原教授は、グローバルな食権力から独立した食と農の自立を

考える。それは「食料安全保障」というナショナル(日本人中心)な枠組みにおさまらない。自分たちのものは自分たちでつくる。ローカルの規模の「食料主権」の国際的連合をつくることだと話されました。結びに生協や地産地消、産直提携の世界史的意味についてふれられ、生協への期待を語られました。

参加者からは「食権力を一部の穀物メジャーが握り、世界の人々を飢餓に追い込んだり、戦争への道に引きずり込んだりもしてきたということを知り恐ろしくなりました」「我々が食を大事にし、自給率を上げていかないと大変な事になると痛感しました」などの感想がありました。



NPO法人コンシューマーズ京都のインターン生が司会進行

ピースアクションinナガサキ



長崎の平和祈念像の前で

2025年8月7日（木）
 8日（金）、長崎県生協連と日本生協連の共催で「2025ピースアクションinナガサキ」が開催され、全国からオンラインでの参加者を含め、のべ約1,900人が参加しました。

京都府生協連から松本樹事務局長と、立命館大学国際平和ミュージアム学生スタッフの藤永凜さん（立命館大学修士1回生）と田中優衣さん（立命館大学4回生）が参加しました。ピースアクションは、戦争・被爆体験の継承や、世界のさまざまな戦争や紛争、基地問題、憲法など、多角的なテーマで平和を考える生協独自の取組みです。毎年広島、長崎、沖縄で学習講演会や交流会を実施しており、長崎では1978年に生協の独自集会「虹のひろば」を中心にナガサキ行動（2004年から

「ピースアクションinナガサキ」に名称変更）が始まり、今年で48回目となります。

今年、被爆・戦後80年を機に、次世代への継承を意識し、平和活動に取り組む若者たちとの企画、被爆について語り継ぐ活動をおこなう方がたの講演など、合計12企画がおこなわれました。「ミライの平和 活動」と題して、テックノロジーを活用して戦争の記憶を後世に伝えるプロジェクトについて、東京大学大学院・渡邊英徳教授の話をお聞きしました。



被爆者の証言や合唱などがおこなわれました

「ヒロシマ・ナガサキ原爆と人間」写真展と高校生が描いた「原爆の絵」展

2025年8月23日（土）
 27日（水）、「Zest」ゼスト御池寺町広場（京都市役所前）で開催しました。主催は、「原爆写真と原爆の絵」展示会実行委員会（京都府生協連



海外からの観光客へ折り鶴のプレゼント

を含む9団体で構成）。後援は、京都市、京都市教育委員会、原爆投下後の広島・長崎の惨状を伝える写真パネルの展示や、広島市立基町高校の生徒たちが、被爆者の証言をもとに共同制作した絵画を多数展示しました。

また、会場では『長崎の郵便配達』のDVD鑑賞を実施したり、核兵器廃絶を求める署名、募金をおこないました。TVニュースや新聞を見て来られた方や、夏休み期間で子ども連れの方がたくさん足を止め、熱心に展示を見られていました。来場者数は5日間でのべ2,980人にのぼりました。



DVDを熱心に見入る参加者

子ども平和新聞プロジェクト

日本生協連の呼びかけに応え、2025年6月～8月にわたり「子ども平和新聞プロジェクト」を全3回実施しました。（主催：京都府生協連、共催：京都生協、協力：株式会社京都新聞社）

京都府内各地から集まった小学5年生～高校1年生までの7人が参加しました。

本プロジェクトは、被爆・戦後80年という節目に、次世代を担う子どもたちが平和について深く考えるきっかけをつくり、ジャーナリズムを活用した学びを提供。子どもたちは新聞というメディアを使い、自らの調査や取材を通じて平和の重要性を理解し、得た知識を記事として表現し、平和のメッセージを継承する機会となりました。

1回目は、京都新聞社（京都市中京区）で、同・編集局報道部社会担当・論説委員の渋谷哲也部長より、新聞の役割、新聞の特徴、記事の書き方について、教わりました。また、京都新聞社内の見学を実施しました。2回目は、立命館大学国際平和ミュージアムを訪問し、展示物を見学。立命館大学の3人の学生スタ

ッフが館内を案内し、たくさん取材や質問にも答えてくれました。3回目は、京都新聞社・久保田昌洋記者から新聞の効果的な見出しの書き方やレイアウトの仕方などについて講義がありました。

完成した新聞の完成披露会と修了式、またピースアクションinナガサキに参加した立命館大学の学生からの参加報告会を、10月5日（日）、コープ二条駅店2階KOTO（コト）（きょうとこらぼ）で実施しました。自作した新聞を前に、なぜこのテーマについて新聞にしようと思ったか、自分の伝えたいこと、本プロジェクトに参加したなかで感じたことなどの報告の後、修了式をおこないました。京都府生協連・西島秀向会長理事より、修了証を手渡し、京都新聞社・久保田昌洋記者からの講評を読み上げました。



立命館大学国際平和ミュージアムで取材

京都の生協 理事長懇談会

2025年9月2日(火)、
コープ御所南ビル会議室で開
催しました。理事長懇談会は
会員生協の活動について交流
することや、生協を巡る時々
の話題・課題について学び、
自生協の今後の事業や活動、
運営に活かすことを目的に開
催しています。

鯉江賢光専務理事が司会進
行し、西島秀向会長理事が開
会のあいさつをしました。

講演では京都大学防災研究
所地震防災研究部門・浅野公
之教授より「南海トラフ地震
による京都府への影響と日頃
の防災・減災活動について」
をテーマにお話しいただきま
した。各会員生協からは講演
の感想や自生協の近況報告が
あり意見交流しました。高倉
通孝副会長理事が閉会のあい
さつをおこないました。

9会員生協から理事長・副
理事長・専務理事など23人が
出席しました。



京都大学防災研究所・
浅野公之教授

京都の生協活動功労者
表彰式



功労者のみなさんと記念撮影

2025年10月21日(火)、
レストラン「おおたや」で開
催しました。京都府生協連の
表彰制度にもとづき毎年おこ
なっているもので、表彰の対
象となった方は、2024年
8月1日から2025年7月
31日までのあいだに退任した
役員のうち、①役員在任期間
が2期以上または2年以上あ
った方、②特別に功労があっ
たと認められる方、です。

2025年は各会員生協か
ら12人が推薦され、表彰され
ました。
表彰式に出席された功労者
5人に、西島秀向会長理事が
感謝状を贈りました。
表彰式には、該当する生協
の役員も同席しました。

会員生協福祉・医療分野交
流会 開催

2025年10月25日(土)、
6会員17人が参加し、生活ク
ラブ京都エル・コープたすけ
あい活動スペース「りんく・
る」で開催しました。この交
流会は、福祉事業や医療事業
を展開している会員生協が集
まり、地域の福祉や地域づく
りをテーマに、この分野にお
ける課題の交流や情報の共有
をおこない、学び合うことも
に会員生協の連携を深める機
会とすることを目的に開催し
ており、今回で3回目です。

今年、生活クラブ京都エル・
コープが立ち上げられた、た
すけあい活動スペース「りん
く・る」を訪問し、「りんく・
る」で取組まれているカフェ
+コミュニティ「Cafe+Meets
by Katsurality」、食事サービ
ス介護保険サービス「まんな
る」「さざなみ」「みんなの



福祉・医療分野で連携を...

台所ぐるり」、居場所スペー
ス「みんなのサロン」、生協
の注文品受取ステーション
「MOMO」、たすけあい子育
てスペース「もこもこ」、京
都市久世西児童館分室など、
それぞれの事業内容や現状を
お聞きし、施設見学した後、
参加生協から近況の取組みに
ついて報告、交流しました。
交流会終了後、昼食には
「みんなの台所ぐるり」が作
ってくださったお弁当をいた
だきました。

2025年度 理事監事研
修会 開催

京都府生協連では、毎年、
おもに新しく理事や監事にな
られた役員を対象に開催して
います。今年も、生協法の知
識や役員の役割と責任、経営
分析の基礎知識について学
ぶことを目的に、会場とオンラ
イン併用で開催し、講師は日
本生協連に依頼しました。

第1回は、2025年7月
29日(火)、「生協における役
員の職務と責任について」を
テーマに、法務部・太田史子
氏を講師に招き、役職員19人
が参加しました。
研修の冒頭、京都府文化生
活部消費生活安全センター調
査・指導係の西見平氏より、
生協検査における特徴的な指

摘事項等についてご報告いた
だきました。

第2回は、9月9日(火)、
「監事監査の基本と実務のポ
イント」をテーマに、渉外広
報本部法務部・井藤康治氏を
講師に招き、役職員21人が参
加しました。

第3回は、「経営分析の基
礎」をテーマに、10月14日
(火)、管理本部経理部・川渕
笑子氏を講師に招き、役職員
23人が参加しました。

参加者からは「今年度より
理事となり、研修会参加を通
して理解が深まってしまし
た。講義を聞いているときは、
わからない語句などが出るた
びに検索しながらで、お話し
についていくのに必死です。終
わってからは、自分自身でメ
モを取ったところから、自分
なりに落とし込むことで理解
につなげている感じです。こ
れから活動していくなかで気
を付けたいといけないところ
や、大事にするポイントを新
任の今聞けて良かったです」
などの感想がありました。



日本生協連渉外広報本部
法務部・井藤康弘氏

第24回京都府協同組合
役員体験・交流学校

開催

2025年9月11日(木)
12日(金)、京都府綾部市にある綾部木材センターや、舞鶴市にある林ベニヤ産業の合板工場及び木質バイオマス発電所の見学などに19人が参加しました。

主催は京都府協同組合連絡協議会。京都府の協同組合(農協、漁協、森林組合、生協)で働く役員らの教育と育成を目的とし、連携や課題を学び、認識を深めあう機会として毎年開催しています。

今回は森林組合連合会が企画を担当し、「木材の流通及び加工現場から木材の流通を学ぼう」をテーマに開催しました。

初日は、京都府森林組合連合会が運営する木材の流通拠点で、おもに原木の買取・販売をおこなっている木材流通センターを見学しました。その後、林ベニヤ産業に移動し、原木の入荷から合板の出荷までの工程を見学しました。

2日目は阪南大学経営学部・加賀美太記教授から、「協同組合とは何か、その魅力と可能性」というテーマで講演をいただきました。



木材の流通について学びました

その後のグループワークでは、各組織の趣意書等を読み、組織間での共通点や違い、現在の自分の組織の事業につながっている部分等について交流。

参加者から、「製造の過程で出る木片は隣接するバイオマス発電所で活用され、資源を無駄にしない仕組みに感じました」「今回の研修を通じて今後、協同組合同士で連携し、積極的に交流、協同することで、一層大きな成果が生まれる可能性があるのではないかと思われました」などの感想が寄せられました。

第36回近畿地区生協・行政
合同会議

2025年8月20日(水)、大阪市の都シティ大阪天王寺で、「つながる力で安心してくらし続けられる地域社会づくりをめざして」をテーマに開催され、33人が参加しました。

大阪府生協連・中村夏美専務理事が司会を担当、兵庫県生協連・岩山利久会長理事(近畿地区生協府県連協議会代表)、大阪府府民文化部・松阪博文部長が、開会のあいさつをのべました。厚生労働省社会・援護局福祉基盤課消費生活協同組合業務室・日野徹室長のあいさつでは、「地域共生社会の後押しとなる各生協の実践は、国の目指す社会の実現とも合致するため、生協の発展を願っている。生協・行政それぞれの情報を交換するなかで、『安心して暮らし続けられる地域づくり』をすすめることにつなげていきたい」と期待をのべられました。

2025年度第2回京都府
食の安心・安全意見交換会

2025年10月10日(金)、南丹市にある(株)谷牧場と、雪印メグミルク(株)京都工場で開催されました。

(株)谷牧場・谷学代表取締役から、酪農の生産現場の業務説明及び施設見学の案内



牛舎の中を見学

を受け、農場HACCPの展望をお聞きしました。その後、雪印メグミルク(株)京都工場に移動し、施設を見学。牛乳の工程に沿った安心・安全について意見交換をしました。

京都府生協連のほか、NPO法人コンシューマーズ京都、京都府連合婦人会から9人が参加しました。



2025・産直フォーラム
in鳥取

2025年11月1日(土)2日(日)、鳥取市国府町コミュニティセンターを主会場に開催され、参加人数は115人、主催はCOOP牛乳産直交流協会、テーマは「産地と食卓と未来をつなぐ産直」。

基調講演では「日本の食料安全保障と農業の持続性―改正食料・農業・農村基本法とみどりの食料システム戦略から考える―」をテーマに、愛

知学院大学経済学部・関根佳恵教授が講演。その後、生産者から酪農の現状についてお話しがあり、これからは産直商品が安定して生産され、利用し続けるために私たち消費者ができることについて、8つのグループにわかれて分散交流をおこないました。2日目は大山乳業農協を訪問、PRビデオを視聴し、工場見学をしました。

災害時連携NPO等ネット
ワーク設立10周年記念シン
ポジウム 後援

2025年10月18日(土)、立命館大学朱雀キャンパスで開催し、60人が参加しました。

「災害時連携NPO等ネットワーク(災害NPOネット)」は、設立10周年を迎え、「ひと声かけて支え合う」をテーマに、今後の地域社会における支援のあり方を展望するシンポジウムを開催。京都橋大学・岡田知弘学長が、基調講演をおこないました。同ネットは、自然災害による被害が京都府内で発生した際、地域の自治体との連携などにより、被災者への支援及びNPO等の相互支援をおこなうことを目的としたネットワークで、京都府生協連はこのシンポジウムを後援しました。

京都府生協連 第53回「京都の生協活動を豊かに発展させる協議会」

～組織と事業のイノベーションによる協同組合のあらたな価値の発見・創造の場として～

テーマ1 「今年度の事業活動や組合員活動についての交流」

テーマ2 「(一財)全国大学生協連奨学財団の紹介と大学生の現状を聞く」

2025年11月11日(火)、コープ御所南ビル会議室とオンライン併用で開催し、役員や関係者25人が参加しました。



京都府生協連・上西良太常任理事

第51回KSKで会員生協より、2025年度の活動方針や重点課題の報告と交流をおこないました。今回、約半年が経過し、取組み状況等を共



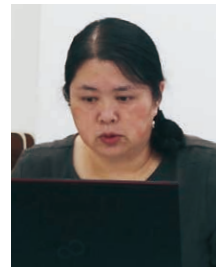
同志社生協・後藤高宏専務理事

有し、活動を学び合い、連携につながる機会にすることを目的に開催。

4会員生協より取組み状況の報告があり、全体交流をしました。また、(一財)全国大学生協連奨学財団・中森一朗専務理事と全国大学生協連・



京都生協・橋本秀弘組織運営部マネジャー



生協生活クラブ 京都エル・コープ・山路容子理事長

学生委員会の瀬川大輔氏と志村颯太氏から『たすけあい奨学制度』と学生の实情について紹介があり、理解を深める機会となりました。



京都高齢者生協くらしコープ・奥谷和隆専務理事

参加者からは「若い人達が安心して、勉強ができ、将来を考えられる社会であって欲しいと願います」などの感想が寄せられました。



(一財)全国大学生協連奨学財団(たすけあい奨学制度)の紹介

おもな行事のお知らせ

2026年新春交歓会

日時…2026年1月10日(土) 12:15～13:30
会場…立命館朱雀キャンパス

京都府生協連と各会員生協の相互連絡通信訓練

日時…2026年1月15日(木) 8:45～10:00

2025年度きょうと食の安心・安全フォーラム

日時…2026年2月13日(金) 13:30～15:30

会場…京都府立京都学・歴史館小ホール
テーマ…「京の食 作り手の想いにふれて」

京都環境フェスティバル2026

主催…京都環境フェスティバル実行委員会(構成…京都府、京と地球の共生府民会議ほか)

日時…2026年2月11日(水・祝) 10:00～16:00

会場…京都府総合見本市会館(パルスプラザ)

※京都府生協連は会員生協の環境商品、取組み紹介で出展予定。

MCA無線訓練

日時…2026年3月4日(水)

謹賀新年

旧年中はご支援・ご協力を賜り、ありがとうございました。本年も、みなさま方とごいっしょに、食の安全・くらしの安心をめざし、邁進してまいりたいと存じます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

二〇二六年 一月一日

京都府生活協同組合連合会
会長理事 西島 秀向



CO-OP

発行 京都府生活協同組合連合会
TEL 075 (251) 1551
URL http://www.kyotofu-seikyoren.com

〒604-0857 京都市中京区烏丸通一条上る時絵屋町258番地 コープ御所南ビル4階